

## ■ 富津館山道路の整備を実感



千葉県 館山市長  
森 正一 氏



道の駅 富楽里とみやま 駅長  
杉本 和彦 氏

館山市を含む南房総地域は千葉県の南端に位置し、温暖な気候や自然豊かな地域として知られております。

当地域では、東関東自動車道館山線や東京湾アクアラインの建設により、首都圏からのアクセス性が飛躍的に向上しました。館山線の一部を構成している富津館山道路は2004年に全線開通し、「時間・距離の大きな短縮」や「観光交流人口の大幅な増加」など、広域幹線道路として地域経済の発展に大きな役割を果たしています。

東京や横浜、羽田などが身近になったことで、南房総地域から首都圏や遠方地域へのレジャーや観光、買い物等を目的に他地域へ訪問する機会が増えたほか、自然豊かなライフスタイルを求めた移住や二拠点居住のニーズにも応えられるようになりました。

一方、防災の観点では、これまでの幹線道路であった国道127号は、山肌が接し、狭隘なトンネルも数多く含む道路形態であり、大規模地震や集中豪雨時に寸断され、地域が孤立する危険性を抱えていましたが、富津館山道路の整備によって、災害時における安全・安心な広域幹線道路が確保され、半島性ならではの脆弱さの解消につながりました。

富津館山道路は、暫定2車線の供用となっておりますが、国の「高速道路における安全・安心基本計画」において、全線が4車線化の優先整備区間に選定されていることから、観光振興や防災力の向上のためにも、早期の4車線化を期待しています。

当地域の更なる発展のためには、道路インフラの整備・充実が重要課題であることから、館山市といたしましても、富津館山道路の早期4車線化を図るため、引き続き沿線の市町や千葉県と連携し、国等の関係機関への働きかけを行っていきたく考えています。

人や物流、各地域をつなぐ道路は、人々の生活を支える基盤です。以前、南房総地域は都市部へのアクセスが非常に悪く、多くの方が電車を利用していました。今回20年を迎える「富津館山道路」の全線開通は、南房総地域にとっては暮らしや経済を支える最大の交通インフラとなりました。

ハイウェイオアシス富楽里・道の駅富楽里とみやまは、2003年4月4日に開業いたしました。館山自動車道及び富津館山道路の全線開通により、南房総への来訪者の増加及び都市部へのアクセスが容易になりました。

オープン当初の2003年は、道の駅への来店客数（直売所レジ通過人数）が年間約35万人ほどでしたが、2005年には42万人、2009年以降には50万人を超えるまでに成長してきました。地域経済への貢献として、年間売上は、オープン当初の2003年で6億6千万円、オープンから20年間では194億円を超え、本年度中には200億円を超える見込みとなっております。更には都市部への移動手段として高速バスが定着したことにより、生活の足としての利便性が飛躍的に向上したほか、道の駅の利用者の増加にもつながっております。その結果、交流と物流を支える交通基盤として当地域の発展に大きく寄与してきました。観光客だけではなく地域住民・モノ・情報の移動により、大きな経済活動が営まれる事となりました。

過疎化が進む南房総地域にとっては、基幹道路の整備は、持続可能で賑わいのあるまちづくりにおいて欠かせないインフラです。都市との交流を始めとする情報交流や、災害時のライフラインとしても期待が持てます。更には環状道路などの南房総一帯をネットワーク化するような基幹道路の整備などにより、安心・安全な住みやすいまちを創出していただけることを願います。